

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	北潟湖流入河川の藍藻 <i>Microcystis aeruginosa</i> を用いた生長阻害試験
発表学会名	第57回日本水環境学会年会
発表者名	吉舎 直輝（環境部）
開催場所	愛媛大学城北キャンパス（愛媛県松山市）
発表日時	令和5年3月15日（水）13：30～15：00
発表内容	植物プランクトンは湖水の有機汚濁の主要因のひとつであるとともに、一次生産者として水圏生態系の基底をなす生物である。そのバイオマス量や種構成は湖沼の水質や水圏生態系を左右する。福井県の北潟湖は観音川を主たる流入河川としている。観音川流域には、水田、畑、住居および事業所があることから、これらの排水に含まれる栄養塩類をはじめ、各種化学物質が北潟湖に流入することになる。今回、観音川河川水が北潟湖内の植物プランクトンの生長に与える影響について、その毒性を評価するため、藍藻 <i>Microcystis aeruginosa</i> を用いた生長阻害試験の実験系を構築し、稲作期間を対象に試験を行った。その結果、毒性単位 TU は1～100 程度となり、時期により大きな変動があった。また、一部の検体では NOEC が 20%以下となるなど強い毒性がみられ、流入水が湖内植物プランクトンの生長に影響する可能性が示唆された。